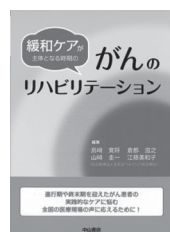


島崎寛将, 倉都滋之, 山崎圭一, 江藤美和子 (編)

緩和ケアが主体となる時期の がんのリハビリテーション

目 良 幸 子

(東名古屋病院附属リハビリテーション学院, 作業療法士)



がんは日本での死亡原因の1位を占め, 男性の2人に1人, 女性の3人に1人が生涯でがんを経験するといわれる現代はまさにがんの時代です。しかし作業療法の対象疾患としてがんが注目されるようになったのは, 2007年(平成19年)に「がん対策基本法」が施行され, 2010年(平成22年)の診療報酬改定で「がん患者リハビリテーション料」が認められてからです。

また「緩和ケア」とはWHOの定義によると「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して, 痛みやその他の身体的問題, 心理社会的問題, スピリチュアルな問題を早期に発見し, 的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって, 苦しみを予防し, 和らげることで, クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチである」とされています(本文より)。この「緩和ケア」という言葉, 本当に味わい深く, リハの理念にも通じる概念ですが, 残念ながら今まではあまり

作業療法の世界になじみのない言葉でした。

このようにがんといい, 緩和ケアといい, 「身近なようでよく知らない, 学校でもしっかり学んだことがなかった」言葉に対して私たちは漠然と苦手意識をもってしまい, 敬遠しがちです。特にがんが進行し, ささまざまな終末期症状が出現して, 対象者自身やご家族が心身ともに苦しいと感じられる時期になると, どのように接したらよいのかさえわからないと立ちすくんでしまいます。でも実際は「脳血管障害」や「リウマチ」の作業療法を実践するために必要な基礎知識があるのと同じように, がんや緩和ケアについてもこの領域でよく使われる用語や症状への対応について知っていれば, リハの流れや作業療法の内容は特殊なものではありません。

とはいえ, がん関連の専門書籍には, OTが手に取って利用しやすい本はまだあまり多くありません。そのような状況で「いやいや, OTにも十分に活用していただ

ますよ!」と思わせる本がこの『緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション』です。がんの作業療法の領域で大活躍中の島崎寛将氏を中心に編集されて, がんのリハビリテーションについて初心者にも読みやすくまとまっています。特に第4章「家族ケアとしてのリハビリテーション」や第5章「がんのリハビリテーションで用いるコミュニケーション・スキル」, 第7章「おわりに—自分自身のためのストレスマネジメント」の項目等は立ちすくんでしまいそうなときに読んでみてください。「ああ, そうなのか」という具体的なアドバイスが手に入ります。がんや緩和ケアに興味はあるけれど自信がないという方, ぜひ手にとってご覧ください。明日からの臨床にきっと役立つ1冊です。

B5判 288頁 3,800円+税
中山書店 刊
☎ 03-3813-1103